

旧国立駅舎 活用方針報告書【概要版】

国立市都市整備部国立駅周辺整備課
平成30年3月

旧国立駅舎は、大正15（1926）年の開業以来、まちのシンボルのひとつとして多くの皆さまに親しまれ続けてきました。平成18（2006）年に中央線連続立体交差事業のため解体されましたが、市は、解体された部材を保管し、平成32（2020）年の再築をめざしています。旧国立駅舎は創建当時の姿で、市の情報発信施設として再築します。市民の皆さま等からいただいた意見を踏まえた旧国立駅舎の活用方針をまとめました。

（1）旧国立駅舎の活用コンセプト

a.再築の目的

みんなに親しまれ、まちの魅力を高めるくにたちのシンボル

の復活

b.キャッチフレーズ

三角屋根で“まちあわせ”

元々の駅舎としての機能の一つに「待ち合わせ」があります。これに「まち全体をつなぐハブ機能」や「まちの情報発信機能」といった、くにたちのまちと出会う「街あわせ」という意味を込めました。

歴史ある古い建物をまったく新しい活用方法に塗り替えるのではなく、新旧が共存する活用方針をめざします。

※当フレーズは平成29年10月開催の「旧国立駅舎の活用に関する懇談会」にて参加者の方からいただいたアイデアを組み合わせたものです。

c.活用コンセプト

市内外の人々が集う交流拠点

さまざまな出会いが生まれる「まちのラウンジ」

市内情報発信・回遊性の向上

まちの魅力が集まり広がる「くにたちと出会う玄関口」

文化の発信

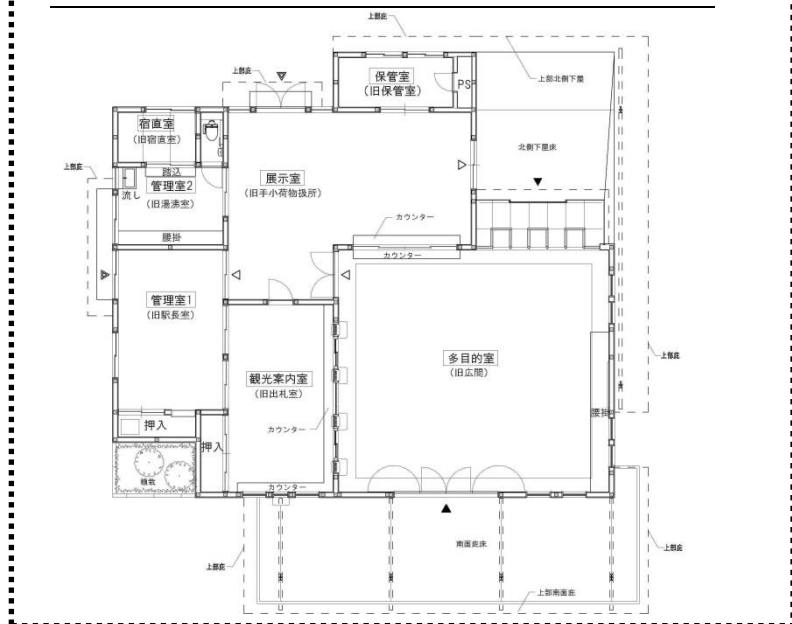
文教都市にふさわしい「歴史・文化・芸術の発信拠点」



▲創建当時の旧国立駅舎

（写真所蔵：国立音楽大学）

旧国立駅舎の平面図（平成 28 年度基本設計）



▲多目的室（広間）の内観図（イメージ）

（２）各部屋の活用イメージ

a. 多目的室（広間）の活用イメージ

[活用方針] 旧国立駅舎の創建当時の雰囲気が味わえる待ち合わせ・憩いの場

[今後の検討課題（具体的イメージ）]

<日常的な活用>

①人が集まる待ち合わせの場・憩いの場

→ふらっと立ち寄り、飲食や読書、おしゃべり等ができる環境をととのえるため、旧国立駅舎の廃材を利用したベンチの設置や、音楽を流すなど居心地の良い環境をめざして検討をします。（JR 国立駅利用者による通り抜けを阻害しないように考慮します。）

②歴史的な雰囲気を感じる特別な空間

→創建当時（大正 15 年）を可能な限り忠実に再現し、歴史性を感じられる空間作りをめざします。また、改札で記念切符を切るパフォーマンス等を行うことや、古き良き昔の駅をイメージするもの（伝言板等）の設置を検討します。

③さまざまな情報を提供するデジタルサイネージを設置

→おすすめスポット情報・日々のイベント情報・時刻表といった利用者目線の情報のほか、桜並木など景観の良さを伝える P R 映像・広告・災害情報・注意喚起情報等を放映することが可能か検討します。

<時間や条件を限定した場合に可能>

④市内の祭りや季節の節目ごとに合わせてイベントに使用

→さくら開花（入学）・天下市・旧車祭・クリスマス等さまざまな時期に応じて、旧国立駅舎でどのようなことができるか検討します。入学やクリスマスの時期にコンサートを行うことや旧車祭の時期に車体を展示すること等のアイデアをいただいております。また、愛着を生む企画として、市民参加の大掃除の実施を検討します。

⑤地元商店会や教育機関等による企画・イベント活用

→くにたち市民芸術小ホールや公民館との差異化を考慮のうえ、学生によるコンサート等を開催することや、定期市のような場、地元商店会のイベント会場として活用ができるか諸条件を踏まえ検討します。

⑥その他旧国立駅舎ならではの企画

→まち歩きイベントの起点としての活用、大正期にちなんだ企画等、旧国立駅舎ならではの企画について検討します。大正・昭和初期にちなんだ企画の例として、撮影会や蓄音機による音楽会、当時を模した結婚式等のアイデアをいただいております。

b. 観光案内室（旧出札室）の活用イメージ

[活用方針] くにたちの魅力を発信するインフォメーションセンター

[今後の検討課題（具体的イメージ）]

<日常的な活用>

①インフォメーションカウンターの設置

→インフォメーションカウンターの案内人に関する検討（案内人として必要となる機能の整理、案内人の受付時間、ボランティアスタッフ）を進めます。案内人には接遇の作法（おもてなし）を持ってもらうことが重要、観光・イベント情報に限らず行政情報の案内もできると良い、案内人が大正期風の服装であると良いといったアイデアをいただいております。

②国立駅周辺および市内のまちの魅力を紹介する観光情報の集約

→大きな市内地図による情報発信や、テーマを変えた市内の魅力の特集企画等について検討し、まち歩きを喚起します。名所の紹介だけでなく、街中で頑張っている方々についても広く紹介してほしいというご意見をいただいております。また、国立市観光まちづくり協会等ノウハウを持っている団体との連携を検討します。

③旧出札窓口等を魅力的に活用

→観光案内の窓口として、旧出札窓口（駅員風）や南側窓（キオスク風）をうまく利用できないか検討します。また、旧出札窓口を写真撮影のポイントとして楽しんでいただけるようにします（大正時代風の貸衣装を用意する等の工夫を検討。）

<時間や条件を限定した場合に可能>

④市内の商店や作家等の紹介につながる物販コーナー

→物販コーナーを設けます。お土産となる旧国立駅舎グッズ（例：再築に使用できなかった部材を再利用したグッズ）の企画やアンテナショップのように名産品等を販売することについて検討します。なお、旧国立駅舎での物販により市内回遊性を損なわないよう考慮します。

⑤まちの資源への誘導につながる企画の実施

→市内には、旧国立駅舎だけでなく谷保天満宮や個性的な店舗、豊かな自然等、多くの観光資源があります。各所へ足を運んでいただけるような情報発信や企画を検討します。

c. 展示室（旧手小荷物扱所）の活用イメージ

[活用方針] くにたちの歴史・文化・芸術を伝える展示室

[今後の検討課題（具体的イメージ）]

<日常的な活用>

①旧国立駅舎の文化財としての価値の紹介

→パネル展示などで、国立大学町の誕生とともに建てられた歴史的建物であることや、多くの方々に親しまれ保存活動が行われた経緯、復原方法やその過程の紹介や古レール柱（再利用しなかった部分）等の部材展示等を引き続き検討します。なお、文化財としての旧国立駅舎についてはくにたち郷土文化館でも展示を行うことで、くにたち郷土文化館への来館を促します。

②くにたちのまちの形をわかりやすく伝える展示

→駅とまちが一体になった優れた都市計画により国立学園都市が形作られたことに関するパネル展示等を行います。古地図等が展示されているとわかりやすいのではないかとのご意見をいただいています。

③まちを巡りたくなるような、くにたちの魅力を伝える展示

→活用コンセプトである「まちの魅力」の集約・発信は展示室でもすべきであるというご意見をいただいています。文化財に関連する資料展示にとどまらない展示内容について検討します。また、観光案内室または広間と連動した情報発信や、地域について学ぶことのできる図書コーナーを検討します。

<時間や条件を限定した場合に可能>

④企画展の実施

→歴史・文化・芸術に親しんでいただくために、くにたち郷土文化館等の出張展示等の企画展について検討します。企画展開催時に対応できる常設展示物のレイアウトを検討します。

⑤観光案内室と連動した企画・展示の実施

→くにたちの魅力を伝える展示等では、観光と関連する場合が想定されることから、各室の目的の範囲内で必要に応じて連動して企画・展示を実施できないか検討します（例：くにたちアートビエンナーレ等。）また、美術館とミュージアムショップの関係性のような活用方法の意見をいただいています。

(3) 今後の活用に関する検討に向けて

運営、文化財、観光、にぎわい、災害発生時、景観、まちづくり等の視点から今後の検討を進めます。特に運営については、本活用方針にもとづいた具体的活用を実現できる運営方針を検討します。「旧国立駅舎の活用に関する懇談会」にて、市民や学生等が企画または運営に参加できると良いというご意見をいただいているため、市民との協働による継続的な民間・市民力を活かした組織による運営を選択肢の一つとします。また、旧国立駅舎にて行うイベントにおいて、民間企業や市民団体等が企画するものをどの程度とすべきか検討します。

運営費（ランニングコスト）を収益事業により部分的に賄うことができないかという意見をいただいております。広告、物販等による収益事業について諸条件を踏まえ、実現性を検討します。

また、より多くの方々に利用いただける適切な開館時間の設定について検討します。